

# 令和 2 年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園  
中央農業大学校

学校関係者評価委員会

学校法人有坂中央学園 学校関係者評価委員会は「平成 31 年（令和元年）度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和 2 年 9 月 17 日に実施したので、下記のとおり報告します。

## 1. 学校関係者評価委員

業界関係者：須藤 泰人((有)ロマンチックデーリィファーム)  
業界関係者：竹内 佳晴 (群馬の食文化研究会)  
卒業生：栗原 諒雅  
保護者：川田 純子

## 2. 平成 31 年（令和元年）度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央農業大学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会のニーズに対応した社会人の育成に努力している。</li> <li>●society5.0 の時代を踏まえ、農業も新しい時代に入るが、そこで活躍できる農業関係者の育成に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も本校の特色を生かし、学生に理論と実践の両面をから指導を行っていく。</li> <li>○農林水産省、農業新聞だけでなく、スマート農業に関係している各団体の HP にも注意し、常に最新の情報を入手して、それを学生に還元していく。</li> </ul>
2. 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意志決定の過程も明らかになっている。</li> <li>●教育活動に関する情報公開がなされているものの、HP における情報公開が遅れてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HP の担当者を決めるだけでなく、情報が公開されているかそれぞれ項目についてのチェック体制を整えることで、情報公開の漏れを防ぐ。</li> <li>○広報活動において紙媒体も継続するが、IT 媒体にも力を注ぎ、幅広く本校の PR ができるようにする。</li> </ul>
3. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育課程の編成・実施方針等が策定されており、職業教育・キャリア教育の視点に立った体系的なカリキュラムが編成されている。</li> <li>●クラスの増加、カリキュラムの専門化や学生指導が細分化していくなかで、それらに対応できる教職員の配置について、配慮していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○業界・社会が求める人材を育成するため、特別授業の実施など、業界や企業等と連携し、より実践的な技能を身につける教育に取り組んでいく。</li> <li>○学生からクラス担任および科目担任のアンケートを継続実施し、改善を図りながら、教職員の増員・人材確保について討議を重ねていく。</li> </ul>

<p>4. 学習成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就職率は卒業式までに 100%を達成し、高い水準を維持している。</li> <li>●農業技術検定 2 級合格者を多数輩出し、資格取得にも重点を置いていることは、評価できる。</li> <li>●特に 1 年生の退学者が多かったので、原因の究明と対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職率だけでなく、企業研究を十分に行わせ、就職後のミスマッチがなくなるように、指導していく。</li> <li>○農業技術検定だけでなく、簿記や毒物劇物の資格も農業者に求められる資格であることを認識させ、モチベーションの維持を図る。</li> <li>○欠席が多くなると退学になる確率が高くなるため、本校入学前に登校習慣のない学生や、欠席の続く学生に対しては、家庭に連絡を入れ、保護者と協力して登校させる。学生との個別面談は、担任、学科長、教務次長、副校長とステップを踏む形で実施していく。また、カウンセリングを希望する学生には、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施する。</li> </ul>
<p>5. 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生指導は丁寧に行われているが、その反面担任にかかる負担は大きくなる。指導と負担を切り離して考えることは難しいが、可能な限り負担を軽減していくことが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の朝礼・終礼の場で、問題点の共有（報告、連絡、相談）、全職員協力体制の下、学生対応を図る（継続中）</li> <li>○保護者会等も活用し、保護者との密な連携を図り、学校教育への理解を促進していく。</li> </ul>
<p>6. 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学内のWi-Fi 設備の通信容量が少ないこと、及び空調設備が一部故障していることから、教育環境の整備が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Wi-Fi 通信設備の更新、空調設備の修理をする予定。また、それに加え、ガスの配管修理も行う予定。</li> </ul>
<p>7. 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校の知名度が県外ではまだ低いので、本校の特徴をHPでの配信やパンフレットの送付のみならず、直接高校を訪問する等して、知名度の向上につなげる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の農業における課題と本校のカリキュラムを周知するとともに、興味関心のある高校生を掘り起こす。</li> <li>○広報担当にとどまらず、職員一丸となって本校のPR活動を実施する。</li> <li>○県内外の高校一覧を作成し、訪問実施の「見える化」に努める。</li> </ul>
<p>8. 財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●財務体質が健全であり、適切な財務運営が行われている。</li> <li>●今後の新たな事業展開を考えた時の予算編成が課題となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予算作成では可能な限り詳細まで詰め、収支バランスが予算と大きく異ならないようにする。</li> <li>○安定した学校経営のため、入学者数の確保にむけた募集活動の強化、退学率の低減に努める。</li> </ul>

9.教育の内部質保証システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法令を順守し、自己点検、自己評価を行うとともに、情報公開している。</li> <li>●個人情報の取り扱いに留意している。</li> </ul>	○朝礼、終礼、教務会議等を通じて、自己評価で提起された問題の共有をはかり、全体体制で随時改善に取り組んでいく。
10. 社会貢献・地域活動	●ボランティアの依頼が多く、学校行事に重なることや、動ける学生の数に限りが生じてしまうことがあり、全ての依頼に対応できていない。	○予め分かっているボランティアに関しては早めに情報を告知し、学生の予定を確保しておくようにする。
11. 国際交流	●留学生の申請等取次者証明書を所有している職員が2名いるが、半日事務所をあけて入管に行ける日が限られることも多く、負担がかかってしまう。	○留学生の申請等取次者証明書を取得している教職員が増えるように、講習会があれば可能な限り参加してもらう。 ○留学生の指導を充実させるため、専任の日本語講師の配置を検討する。本科入学希望者については日本語能力検定2級(N2)以上の条件を遵守していく。

### 3. 総評

本校は創立10年目を迎え、卒業生も増え、それぞれが各分野で活躍している。そのため、卒業生とのネットワークを強化したり、新規就農のサポートをしたりできる体制を構築することにより、疎遠になりがちな卒業生同士の情報交換の場にもなるのではないかと。またそれは、卒業生にとっても学校にとっても大きなメリットが生じるのではないかとの貴重な提言を頂くことができた。

なお、上記11項目に対し、委員による評価は良好であったことから、中央農業大学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

以上